

第1学年2組 国語科学習指導案

1 単元 くらべてよもう 「じどう車くらべ」

2 本単元の指導の立場

(1) 児童の実態

本学級の子どもたちは、1学期単元「くちばし」において、文と挿絵を照らし合わせながら読むと、説明されている事柄について読み取れることを学習し、問いと答えの構成になっていることに気づくことができた。また、2学期単元「うみのかくれんぼ」では、列挙型の構成になっている説明文を順序に気をつけて読む学習をしてきている。事柄の順序を考えながら書かれている内容を読んで、理解できるようになるこの期に、本単元を取り上げる。そして、「じどう車くらべ」では、バスや乗用車・トラック・クレーン車の「しごと」と「つくり」について、事柄の順序に沿って比べながら読むことができるようにしたい。さらに、自動車について興味をもち、自動車について本や図鑑で調べ、わかったことを「しごと」とそのための「つくり」という文章の形式を生かして、書くことができるようにしたい。このことは、説明文の文型や事柄の関係性を理解するとともに、「読書センター」としてだけでなく、「学習・情報センター」として学校図書館を活用していこうとする子どもを育てるとともに、自分の考えを主体的に表現する子どもを育成する上からも意義深い。

(2) 教材の価値

本単元は、それぞれの自動車の説明の内容を読み取り、繰り返し出てくる接続語や文末表現に着目させて読み取った事柄について比べ、図鑑づくりを通して説明文の文型や構成を理解していくことをねらいとしている。本教材文は、子どもたちにとって身近な自動車を取り上げ、自動車についての「しごと」と「つくり」の二つの問いに対して、説明が二つの段落に分けて書かれていることで構成がとらえやすくなっている。また、「しごと」と「つくり」を関連付けるために、「そのために」という接続詞が使われており、さらに挿絵も詳しく丁寧に描かれ、理解を深めることを補っている。自動車の図鑑づくりを通して、本や図鑑からそれぞれの「しごと」と「つくり」を読み取り、挿絵等と関連付けながら興味・関心をもって、自動車の特徴をとらえ説明することができる教材である。本単元での学習は、対比して違いを読む3学期「どうぶつの赤ちゃん」の学習へ発展していく。

(3) 指導の構え

図書館の本や図鑑を使って、自分で選んだ自動車の図鑑を作る活動は、どの自動車も「しごと」のための「つくり」になっていることを確認し、事柄の順序に沿って書くことで説明文の構成を理解するのに適した活動であると考えられる。

本単元の指導にあたっては、事柄の順序に沿って比べながら読む活動を通して、それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」は関係があることを理解し、教材文の構成を参考に自分が興味をもった自動車の図鑑づくりをできるようにしたい。そのために、教材文を読んで「しごと」と「つくり」について書かれている叙述を色分けし、書き抜いて整理していく言語活動を行う。まず、「つかむ」段階で、教師が提示した「じどう車図鑑」を見て、意欲を高め学習の見通しをもたせ、本や図鑑から自分が作りたい「じどう車図鑑」の自動車を見つけさせる。次に、「つくる」段階では、バスや乗用車・トラック・クレーン車それぞれの「しごと」と「つくり」について読み取り、図鑑を作る活動を行わせる。そして、「みがく」段階では、本や図鑑を使って自分が作りたい自動車について調べ、「じどう車ずかん」を作らせる。最後に、「生かす」段階では、友だちと「じどう車ずかん」を読み合っ、お互いのよさや感想を伝え合わせる。

特に、単元を通していろいろな本や図鑑を読んで様々な車について調べ、分かったことをもとに自分で「じどう車ずかん」を作るという活動を通して、学校図書館の活用を図る。

3 目標

- (1) 自動車は「しごと」をするために、「つくり」が工夫されていることに興味をもち、「じどう車ずかん」を作るために、進んで絵本や図鑑を読もうとする。【関心・意欲・態度】
- (2) 事柄の順序に沿って、それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」について違いを比べながら読むことができる。【読むこと】
- (3) 片仮名の語を正しく読んだり、片仮名で書く語を使った文を書いたりすることができる。

【言語についての知識・理解】

4 単元の展開（全12時間）

段階	配時	学習活動と内容	教師の支援		
つかむ	①	1 「じどう車くらべ」を読み、単元のめあてを立て、学習の見通しをもつ。 ○ 教師が提示した「じどう車ずかん」を見て、意欲を高め、学習の見通しをもつ。 ○ 「じどう車くらべ」を読んで初発の感想を話し合い、学習のめあてを立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">いろいろなじどう車のことをしらべて、じどう車ずかんをつくろう。</div>	○ 教師がつくった「じどう車ずかん」を提示することで、子どもに本を読んで図鑑を作りたいという興味・関心をもたせる。 ○ 子どもの「じどう車ずかん」づくりへの意欲が高まるよう、絵本や図鑑に載っている自動車の写真をいくつか紹介したり、自動車のビデオを見せたりする。		
		① 2 絵本や図鑑を見て、自分がつくりたい「じどう車ずかん」の自動車を見つける。			
つくる	①	3 教材文「じどう車くらべ」の「しごと」と「つくり」を比べながら読む。 (1) 「じどう車くらべ」の問いをとらえる。 ○ 「しごと」と「つくり」の意味をとらえる。 (2) バスや乗用車の「しごと」と「つくり」を読む。 ○ 教材文を読み、それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」について読み取り、「そのために」という言葉を使って、図鑑作りをする。 ・ 景色がよく見えるように窓が大きいね。 ・ バスはたくさんの人を運ぶことができるね。	○ 説明されていることを挿絵で確認することで視覚的にとらえることができるようにする。 ○ 「しごと」と「つくり」を正しくとらえることができるようにするために色分けした線を引いたり、キーワードを見つけたりする。 ○ 前時に学習した自動車と比べることで、「しごと」のために「つくり」が違うことを理解できるようにする。		
		① (3)トラックの「しごと」と「つくり」を読む。 ・ 重い物を乗せるためにタイヤがたくさんついている。 ・ 座席が乗用車に比べて少ないね。			
	本時 ①	(4) クレーン車の「しごと」と「つくり」を読む。 ・ これも「しごと」と「つくり」の順番で書いてある。 ・ 重いものをつり上げるためにじょうぶなあしがあるね。	○ 毎時間の終末に並行読書を位置づけ、自動車の本や図鑑を読ませ、自分の作りたい「じどう車ずかん」に生かせるようにする。		
みがく	①	4 絵本や図鑑を読み、「じどう車ずかん」を作る。 (1) はしご車の図鑑を作る。 ○ 本を読み、「しごと」と「つくり」を書き抜いて、はしご車の「じどう車ずかん」を作る。 (2) はしご車の「じどう車ずかん」の文が「しごと」のための「つくり」になっているか確かめる。 (3) 自分の選んだ自動車の「しごと」と「つくり」について読み、説明する文章を書く。 ・ 「つくり」はありますやついていますと書いてある文だな。 ・ 仕事をするために合うような作りになっているかな。	○ 机間指導をしながら、書き方などがわからない子には挿絵を見たり、他の自動車と比較したりして考えるよう助言する。 ○ 友だちに自動車の「しごと」や「つくり」が分かるように書こうと意識をもたせるよう声をかける。 ○ 「つくり」とわかる表現例や挿絵に作りを書き込んだものを掲示しておくことで、本や図鑑の文章から「つくり」をとらえやすくできるようにする。 ○ 読み返して、誤字脱字をチェックするようにさせる。		
		① (4) 清書をし、絵を描いて図鑑を完成させる。			
		① (5) 表紙を作り、「じどう車ずかん」を完成させる。			
		①		5 単元の学習を振り返りまとめる。 ○ 自分が作った図鑑と友達の図鑑とを交換して読み合い、感想を伝え合う。	○ 友だちのよさを具体的に伝えさせることで、達成感を味わうことができるようにする。
		生かす		①	

5 本時の主眼

- バスやトラックの文章構成と比べながら、クレーン車も「しごと」と「つくり」の順番で書くと分かりやすいことを読み取ることができる。

6 準備 学習プリント 自動車の本・図鑑

7 本時の展開（45分）

段階	学習活動と内容	教師の支援						
つかむ	<p>1 前時までの学習を振り返り本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ クレーン車とは、どんな自動車なのか、知っていることを出し合う。 <p>クレーン車のじどう車ずかんをつくろう。</p> <p>2 教材文に書かれているクレーン車の「しごと」と、そのための「つくり」とらえる。</p> <p>(1) 「しごと」が書かれているところに赤線、「つくり」が書かれているところに青線を引き、文の構成を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までに作った、「バス」「トラック」の図鑑を振り返りクレーン車について知っていることを話すことで、クレーン車の図鑑づくりへの意欲を高める。 ○ 前時までと同じ色分けをすることで「しごと」とそのための「つくり」という文の構成を視覚的にとらえられるようにする。 						
つくる	<div data-bbox="247 862 925 1131" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; border: 1px solid black; padding: 5px;">つくり②</td> <td style="width: 33%; border: 1px solid black; padding: 5px;">つくり①</td> <td style="width: 33%; border: 1px solid black; padding: 5px;">しごと</td> </tr> <tr> <td style="font-size: small;">ついてきます。 しっかりとあしが、 かたむかないように 車たいが</td> <td style="font-size: small;">じょうぶなうでが、 のびたりうごいたり するように、 つくってあります。</td> <td style="font-size: small;">おもしろいものを つり上げる しごとを しています。</td> </tr> </table> </div> <p>「じょうよう車」や「トラック」と同じで、クレーン車も「しごと」と「つくり」の順番で書かれているね。</p> <p>(2) 「しごと」をするための「つくり」が書いてあることを理解する。</p> <div data-bbox="247 1377 925 1489" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>重いものをつりあげるために、じょうぶなうでとしっかりとあしがついてるんだね。</p> </div> <div data-bbox="247 1489 925 1612" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>だから「そのために」って書いてあるのね。</p> </div>	つくり②	つくり①	しごと	ついてきます。 しっかりとあしが、 かたむかないように 車たいが	じょうぶなうでが、 のびたりうごいたり するように、 つくってあります。	おもしろいものを つり上げる しごとを しています。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挿絵に矢印を書いたり、言葉を書き込んだりすることで、絵と文をつなぎ、内容を理解できるようにする。 ○ 『そのために』という言葉の使い方をおさえ、「しごと」と「つくり」をつなぐことができるようにする。 ○ 今まで作った図鑑を手元に置いておき、自分で図鑑を作ることができるようにする。
つくり②	つくり①	しごと						
ついてきます。 しっかりとあしが、 かたむかないように 車たいが	じょうぶなうでが、 のびたりうごいたり するように、 つくってあります。	おもしろいものを つり上げる しごとを しています。						
みが	<p>3 クレーン車の「じどう車ずかん」を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「バス」「トラック」と同様に「クレーン車」のじどう車ずかんを自分で作る。 <p>「そのために」をつかって、「しごと」と「つくり」のじゅんばんでかくと、わかりやすいずかんをつくることができる。</p> <p>4 自分が作りたい「じどう車ずかん」の自動車の本を読み、「しごと」と「つくり」とらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「しごと」が書かれているところに赤色、「つくり」が書かれているところに青色の付箋を貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 「そのために」という接続詞を使い、「しごと」と「つくり」を順番に書いた、クレーン車の図鑑を作っている。 ○ 自分が作りたい「じどう車ずかん」の自動車についていつでも調べられるように、自動車の本や付箋を手元や教室に置いておく。 						